

一社壁装研究会 2022 年度定期研修会を開催

一社壁装研究会(前田光弘会長)は、11月1日(火)、福井県越前市の和紙の里で定期研修会を開催した。研修会は同会の「高品位壁紙の調査研究・普及」に関する事業の一貫として例年開催されており、今回は6度目の開催となる。21社28名参加した。

研修会は現地2か所で行われた。

初めに明治4年創業、和紙屋杉原商店を訪問。蔵を改装した趣ある和紙ギャラリーで、幅広く和紙を扱われている“和紙のソムリエ”10代目杉原社長より、越前和紙の伝統・歴史・紙についてのレクチャーを受けた。

次に(株)滝製紙所にて抄造作業の現場を研修。

同社は手漉きと機械漉き両方で大紙を製造しており、瀧社長の職人としての伝統的な技量+和紙デザインで新しい和紙の可能性を訴求するなど、国内外の著名な芸術家、設計士らから高い評価を得ている。

現場では惜しみなく技術を見せていただくと同時に、撮影も含めたすべてを公開していただき、この上ない研修となった。

大紙漉きの技術+デザインが好きな瀧社長は「ほんとうは家庭で普通に使っただけの襖紙を漉きたいんですよ」と、和紙づくりの夢を笑顔で語った。

一社壁装研究会では、プラスチック系壁紙が大半を占める日本の壁紙の中で、紙・織物など素材、テクスチャーを生かし、加えて受け継がれた技法を伝承すべく活動を続けるとしている。



和紙屋杉原商店ギャラリー



ギャラリー内②





瀧社長



前田会長と瀧社長



フリーハンドで落水技法のデザイン

3尺×6尺の一枚のもの漉き作業



瀧英晃社長（HPより）

